

どんびま

2013年5月8日発行
 発行者 椛の湖農業小学校

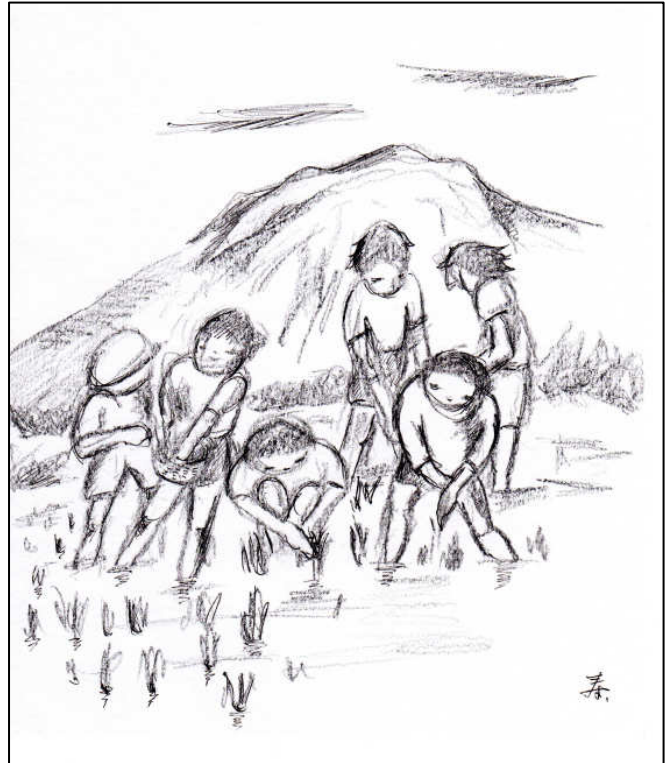
さなぶり

「早苗振舞い」がつづまって、さなぶりになったと言われている。

忙しい春作業も田植えが終われば一段落。農家が一番ホッとできる時である。

頑張った家族の労をねぎらい、もやい(結のこと)で世話になった隣人たちも招待して酒宴を設けたものだった。

人だけでなく田の神様に感謝を忘れない。九州・四国では、田植えが済んでお帰りになる田(稲)の神様「さ」が、天に帰る「のぼり」を見送るお祭りがある。その「さのぼり」が転訛したという節もある。ちなみに、田植えの始まりのお祭りは「さおり」という。



作業を機械で済ませてしまう昨今、さなぶりをする家は少なくなったが、ポタモチを作って田の神に供え、近所にも振舞うのが習わしである。ぼたもち(牡丹餅)はモチ米とウルチ米を混ぜて炊き、軽く突いて丸めて、あんこをまぶしたものだ。秋には同じものをおはぎ(お萩)と呼ぶ。日本はちょっといい。(草)

5月授業日のご案内

- 日程 5月19日(日)
- 受付 9:00~9:30
- 始めの会 9:30~9:40
- 授業(畑仕事) 9:40~11:30
 草取り・土寄せ・苗植えなど
- 昼食 11:30~13:00
- 授業(田植え) 13:00~15:00
 田植え後バケツ稲の説明をして土・苗を配ります。
- 終わりの会 15:00~15:15
- 締め切り 5月14日(厳守)
- 問い合わせ・緊急連絡
 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362 (山内總太郎)

- 服装 作業のできる服装
- 持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具、
 買い物袋、お茶、箸、食器
 着替え(天気がよくても)
- 郷土料理 草餅、ぼた餅、みそ汁等
- ☆かぼちゃの苗は1本持参して下さい。
 それぞれの名札を立てて、かぼちゃ畑に植えます。
- ☆田植えは雨が降ってもやります。天気が良くても泥んこになります。
- ☆バケツ稲用の土を配ります。10リットル位のバケツをお持ち下さい。

～とくちゃんの農小レポート～

屋根の下で運動会

4月授業日は朝から生憎の雨でしたので、予定を変更して午前中に、上野地区の屋根付きゲートボール場をお借りして、運動会を行いました。

1 運動会の成績（得点）。

| | 1G | 2G | 3G | 4G | 5G |
|--------|-----|-----|----|-----|-----|
| 源平まり入れ | 3点 | 2点 | 1点 | 4点 | 5点 |
| お猿の籠や | 3点 | 2点 | 1点 | 5点 | 4点 |
| あめんぼう | 2点 | 3点 | 1点 | 5点 | 4点 |
| 大綱引き | 8点 | 6点 | 4点 | 10点 | 2点 |
| 総合得点 | 16点 | 13点 | 7点 | 24点 | 15点 |

綱引きは 1G:3Gは1G勝 4G:2Gは4G勝 2G:5Gは2G勝（3位）
トーナメントで1G:4Gは4Gが勝ち優勝が決まる（倍点）

結果4グループが優勝となり、オートキャンプ場の入浴チケットが、賞品として渡され年内の利用OKとなりました。

また大好評のパン食い競争は、6年～1年の順に行い、幼児の後はお母さん、お父さん、先生、スタッフ、赤ちゃんに至るまで参加者全員が挑戦しました。

2 昼食。

弁当竹のご飯。おかず付き。

午前中に運動会は無事終了し、配達されたお弁当を屋内ゲートボール場や、雨の上がった神社境内や広場などで食べました。

3 午後の授業。

畑の作業。大根と牛蒡の種まき、白菜、ブロッコリー、キャベツ、ねぎ（2種）の植え付け。

ブロッコリーとキャベツは似たような苗ですが、良く観察してくださいね。

11月の牛蒡掘りは卒業試験と云われており、親子協同しての挑戦・奮闘ぶりが、今から楽しみにしています。

4 持ち帰り。

プランターと土、植えるサニーレタスの苗2本、かぼちゃの種と育成用ポット各2、二本育ったら1本は農小の畑に植えます。

～とくちゃんのちょっと一言～

事務局長の山内さんは、中津川市上野地区の区長さんでも有ったので、天候都合で急ぎょ運動会用の屋内施設を、借りる事が出来てとても幸運でした。

今迄に無いような車の行列に、近所の人達は驚かれた様子でしたが、好意的に迎えてくださいました。傍の里宮に御参りした人達には、きっと良いご利益が待っている事でしょう。

～安保兄の百姓ぼなし～

主食はやっぱりご飯 だけど

この地方では、大型連休が始まると、田んぼに水が張られ代かきが始まる。代かきは、小さなイネの苗がうまく植えられるように田の土をドロドロにかいて平らにする作業である。高い所から眺めると、大きな鏡が毎日増えてくる光景が観られる。

代かきから数日すると、田植えが始まる。特に兼業農家では、連休の内に田植えを済ませたいので大忙しである。

農小でも5月の授業のメインは田植えである。

田植えの後のイネの一生を追うと

「田に植えられ、新しい根がのびて活着したイネは、6月に入ると分けつ期に入る。多くの植物は枝を増やして大きくなるが、イネは根元から茎がどんどんできて株を大きくする。この新しい茎を「分けつ」と言う。分けつは1本の茎から10本ぐらいになる。田植えの時に沢山植えれば沢山の収穫があると思いがちだが、通常1株は20～25本位が理想なので、植えるのは3本を目安とする。

7月の終わり頃、穂にならないムダな分けつをおさえるために、「中干し」といって田の水を切って一度乾かす。

やがて茎の先端内部に小さい小さい穂の赤ちゃんができる。8月に入ると穂が出そろい、花が咲く。花と言ってもひっそりした花で、花がひらくのもほんの2～3時間で受粉するという。受精した花の「胚」が太って「粳」になるまでに45日ぐらいかかり、穂の下の方の粳の3～4%がまだ青いくらいの時に刈り取る。

乾燥したら脱穀し、あるいは脱穀してから乾燥し粳摺りをすると玄米となり、それを精米しやっとなり白米(ご飯)になる。」

皆さんには、バケツ稲をよく観察して「イネの一生」を学んでほしい。

作物は普通乾いた地面に植えることが多い。でもイネは水を張った水田で育てる。イネはずっと昔から水田で作られてきた。水田に使う川の水は、山や平地を流れている間に沢山の養分が溶け込んでいるので、ある程度の収量で良ければ肥料はほとんどいらなくても言われている。イネはもともと水辺の植物で、気温が高く雨の多い東南アジア地帯はイネを育てるのにとってもむいていると言われている。米は世界のほぼ半数の人たちが主食にしている、その90%がアジアで栽培されている。

また水田は、日本のように急傾斜地の多い地形では、大雨の時などには一時的にダム働きをして洪水を防いだり、保水など多目的な働きをしている。

JA全中の行った「お米に関する生活意識調査」の中で、最も好きな主食はごはん(お米)と答えた人は80%あったという。ご飯を食べる頻度は、毎日食べる人が56%と最も多く、平均すると週6日になった。米離れが進んでいると言われるが、「主食はお米」という意識が根強いことがあらためて分かったという。

それでも米の消費量は減少する一方で、農民の高齢化、後継者不足は進んでいる。今でさえ山沿いの水田は放棄され、平地でも休耕・転作といって稲作を休む歯抜けのような光景が目につく。さらにTPPで関税が撤廃され、安い米が海外から入って来るとなると、日本の水田・稲作はどうなっていくのだろう。

資源の無い日本は、鉄鋼・石油・ガスなどのほとんどを輸入している。食糧においても、小麦は90%を外国に頼るなど自給率が40%をきる現状なのに、「主食の米よ、お前までもか」と心配になる。

五月晴れの青空のもとで、野山の新緑が笑いかけてくるのどかな農村風景にも、どうにもスッキリしない日が続いているあぼ兄である。

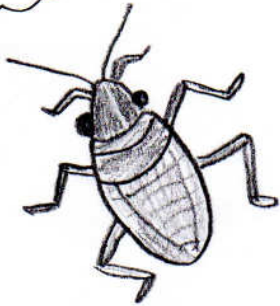
～かなちゃんの虫日記～

田んぼには生き物がいっぱいいます!!!

田植えの前から稲かりの前まで水をためるので、水中や水面、水辺でくらす生き物でいっぱいになります。稲を食べる生き物がくらし、その生き物を食べる生き物もたくさんいます。

田植えのときに見れそうな生き物

すいめん
水面

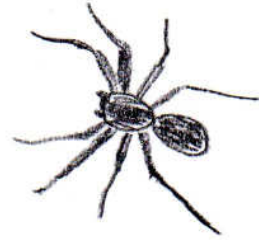


ケシカテロアメンボ類
水面をテケテケ走る。
ほんものは ←これくらい



ヒシバツタ
水におちても
上手に泳ぐ。

←これくらい

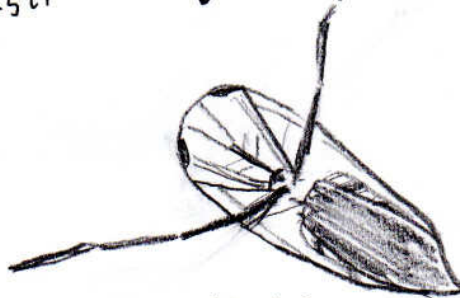


クモ類
いろいろな種類がいる。
虫を食べる。

すいちゅう
水中



チビゲンゴロウ
水の中を泳いでいる。
• これくらい



マツモクシ
おながを上にして泳ぐ。
つかみと口でさしてくることか
あって、ちょっといたいです。

←これくらい



オタマシクシ